

令和4年度第1回旭市総合教育会議 会議録

1 期 日 令和4年11月24日（木） 開会 午後2時00分
閉会 午後3時47分

2 場 所 旭市役所本庁舎3階 政策決定室

3 出席者 米本弥一郎（市長）
諸持耕太郎（教育長）
鏑木 俊一（教育長職務代理人）
鈴木 典男（委員）
富山 理（委員）
平野 勝久（委員）

4 開 会

・江ヶ寄教育総務課副課長

定刻となりましたので、令和4年度第1回旭市総合教育会議を開会いたします。
本日、会議の終了予定時間は、午後4時を予定しております。円滑な進行にご協力をお願い申し上げます。

それでは、次第にしたがいまして進行をさせていただきます。

次第の2、市長あいさつを米本市長より申し上げます。

5 市長あいさつ

・米本市長

日頃は、教育行政に対しまして、ご支援、ご協力いただき深く感謝を申し上げます。

平成27年度から総合教育会議が設置されまして、その間、教育に関する大綱の策定やいじめ防止、学校の統廃合など様々な事項について協議してきました。昨年度は、「学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と地域学校協働本部について」と「ICT教育について」意見交換を行ったところでございます。

本日は、「ストップ少子化大作戦関連事業について」3事業に分けて意見交換をしたいと考えております。

学校・地域いきいきライフプラン推進事業については、昨年度の学校運営協議会と地域学校協働本部について引き続き、今年度は小学校5校をモデル校として、地域学校協働本部を設置し地域コーディネーターを配置して取り組んでいると

ころでございます。

日本一身近な海づくり推進事業については、今年度新たな事業として海岸を地域振興の場として、環境を整備し、移住・定住を目指した事業を行っています。

英語教育パワーアッププロジェクトについては、英語教育を充実させるため外国語指導助手や英語教諭補助員を配置し、切れ目のない外国語教育を展開し児童生徒の育成に取り組んでいるところでございます。

本日は委員の皆様と意見交換しながら、本市の教育行政の更なる向上に努めていきたいと考えておりますので、活発な意見をお願いいたします。

・江ヶ寄教育総務課副課長

次第の3、議題に移らせていただきます。本日の議題は、「ストップ少子化大作戦関連事業について」でございます。議題の選定にあたりましては、委員の皆様より多くのご提案をいただき、ありがとうございました。なお、今回の協議できなかったご提案は、今後の参考とさせていただきます。

それでは、会議運営要綱第3条第1項により、議事の進行を米本市長にお願いしたいと思います。

米本市長、よろしくお願いいたします。

6 議題 ストップ少子化大作戦関連事業について

・米本市長

それでは、ここからは、私の方で進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は、「ストップ少子化大作戦関連事業について」を議題といたしまして

- (1) 学校・地域いきいきライフプラン推進事業
- (2) 日本一身近な海づくり推進事業
- (3) 英語教育パワーアッププロジェクト

の3事業について進めさせていただきます。時間の許す限り委員の皆様と意見交換をしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

まず「ストップ少子化大作戦関連事業について」を事務局より説明をお願いします。

・向後教育総務課長

それでは、ストップ少子化大作戦の概要についてご説明いたします。

資料1 ストップ少子化大作戦の資料をご覧くださいと思います。旭市では、これまでも様々な子育て支援策を実施してまいりましたが、少子化に歯止めをかけるためには、関係各課の連携をより強固にしながら、新たな取り組みを検討・実施する体制が必要ということで、より有効で実行性のある少子化対策の手段を検討するための組織として、令和2年度に、関係各課の若手職員を中心に横断的

な少子化対策プロジェクトチームを設置いたしまして、そのプロジェクトチームから令和3年3月にまとめた企画提案書、これがストップ少子化大作戦へと繋がります。令和4年度から様々な事業を一体的に実施し、チーム旭市役所として取り組んでいるところでございます。プロジェクトチームの提案のあった事業は下の表にありますように、A、B、Cの柱ごとに10の事業がありまして、そのうち教育委員会が関係して行っている事業が3つございます。

NO.5の「学校・地域いきいきライフプラン事業」こちらは地域と学校が連携して故郷旭への愛着心、地域の一員としての自覚を育むまちづくりが少子化対策につながるということを期待しています。

NO.6の「日本一身近な海づくり推進事業」こちらは海岸でのレクリエーションを通じて移住定住に選ばれる地域づくりを目指しております。

NO.7の「英語教育パワーアッププロジェクト」は教育環境を求めての人口流出を抑制し、子育て世代の人口流入による少子化対策を目指しているものでございます。

以上がストップ少子化大作戦の概要になります。

(1) 学校・地域ライフプラン推進事業について

・米本市長

説明が終わりました。ただ今の説明を踏まえまして、1つ目の「学校・地域ライフプラン推進事業について」を事務局より説明をお願いします。

・伊藤生涯学習課長

生涯学習課から説明をさせていただきます。

地域学校協働活動（地域コーディネーター）について2ページをご覧くださいと思います。

千葉県では、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進がされており、県内の公立学校の574校に地域学校協働本部が設置されている状況で、導入率は60%となっています。

旭市では、令和4年度から5校のモデル校で地域学校協働活動を先行して導入し、事業の検証しているところであります。

資料2-1をお願いします。

この資料は、10月までの地域学校協働活動の状況をまとめた資料になります。

本来であれば、学校運営協議会が設置され、その中で学校が支援してもらいたい活動が分かりますが、モデル校に学校運営協議会が設置されていないため、各学校のニーズ調査を行い、その中から地域コーディネーターが調整した活動であります。

モデル校では、海岸清掃、家庭科の補助、読み聞かせ、サツマイモ栽培などの活動が行われています。

資料2ページをお願いします。

この資料は、モデル校で地域学校協働活動を進めている中で、いろいろな課題が見えてきましたので、それらをまとめた資料になります。

主なものについて、ご説明いたします。

NO.2 地域コーディネーターが1人で、企画・話し合い、ボランティアの募集や調整、文書作成などができる人材の確保が難しいという状況であります。

このことにつきましては、複数の地域コーディネーターで役割を分担してできないか検討しています。

NO.3 地域コーディネーターの活動場所の確保、パソコンや電話が必要となっています。現在、パソコンや電話は私物で対応している状況であります。

活動場所については、学校の空き教室や公民館などを検討しています。また、私物のパソコンや電話の使用は、活動場所と合わせて検討していきます。

NO.5 教頭先生の業務量が増える問題については、本格的に地域コーディネーターが中心となって活動ができるようになれば、教頭先生の負担も減ることが予想されるため、地域コーディネーターにふさわしい人材の確保や、役割の明確化、社会教育指導員によるサポート体制も含めて検討してまいりたいと思います。以上でございます。

・齊藤学校教育指導室長

続いて私の方から学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の導入について説明いたします。

資料1をご覧ください。こちらのコミュニティ・スクールですが、令和4年5月1日現在の設置状況ですが、全国の公立小中学校で42.9%、千葉県では15.7%となっており、県内での設置が急がれているところでございます。市としては令和5年度にモデル校として、小学校5校で進めるということで現在準備をしております。令和5年度のモデル校での取り組みを点検・評価した上で、早ければ令和6年度に市内全小中学校に設置できないかと考えております。市内全小中学校への設置には、各小中学校に設置済みの学校評議員からの移行や生涯学習課が進めている地域コーディネーターとの連携などで、モデル校での先進的な取り組みなどを検証し、点検・評価する必要があると考えております。

では、現在の進捗状況について、資料2-2をご覧ください。ご承知のとおり、学校運営協議会は教育委員会から任命された委員が、一定の権限をもって学校運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関となります。大きく3つの権限があります。

1つ目は、校長が作成する学校運営の基本方針を承認することです。育てたい子ども像や目指す学校像に関する学校経営ビジョンを共有します。

2つ目は、学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができます。広く地域住民等の意見を反映させる観点から、学校運営全般について、教育委員会又は校長に意見を申し出ることができます。

3つ目は、教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができます。ここでいう「任用」とは採用・転任・昇任に関する事項であり、分限処分や懲戒処分などは対象となりません。また、個人を特定しない一般的な意見になります。

次にコミュニティ・スクールの機能ですが、図のように保護者や地域住民が、一定の権限や責任を持って学校運営に参画する仕組みとなります。資料に記載があるように、「承認」とはY e s、N oの判断で目標を共有し、よりよい学校を共につくっていかうとする意思確認と捉えることになります。

次に今後の流れをご説明いたします。資料コミュニティ・スクール導入までの流れをご覧ください。令和5年度4月からのモデル校5校での導入に向け、旭市学校運営協議会の設置等に関する規則を作成するため、現在規則の策定に向け準備を進めております。主な内容は、先日校長会議で提案し、承認を得ています。今後モデル校では、保護者等への説明、さらに、学校運営協議会の委員候補者を決定していくことになります。教育委員会が委員を任命することになります。

また、次の資料で、これまでの学校評議員との相違点をまとめましたので、ご覧ください。まず委員数ですが、市内最大規模の第二中学校を考慮し、最大12名としております。他の学校は、10名程度ということで校長先生方にお伝えしているところでございます。また、報酬についてもこれまでの学校評議員と比べ、市の規程を参照し、1日6,000円というように現在考えているところでございます。また、会議は年3回程度、また評価を年1回以上としています。

今後の課題としては、会の中心となる地域コーディネーターをはじめ、どのように10名の委員を各校が選出していくかこれが課題になると言えます。

以上で説明を終わりにします。

・米本市長

説明が終わりましたので、意見交換を行いたいと思います。

ただ今の議題につきまして、皆様の思い・考えを順番に聞かせていただきたいと思います。始めに鎬木教育長職務代理者からお願いします。

・鎬木教育長職務代理者

昨年話題が出ましたが、無理のないようにとお願いはしておいたのですが、学校訪問でこの取り組み状況について聞いてみましたが、概ねこの学校も順調に進んでいるようで安心しています。

資料2-1にあるように、今までいろいろな活動を考えて行っているようで良いと思います。町探検というのがありますが、町探検は地域のことをよく知っ

ている人、教員は他の地域から来て、まったく町のことがわからないということもあるので、町探検に地域の人が案内してくれると良いかなと思います。私も町探検だったら参加できるかなと思いました。そんなことを考えながら、少しずつコーディネーターを増やしていけたら良いのかなという感じがしました。

それから、資料2-1の課題のところにも書いてありますが、一番大変なのは地域コーディネーターの選出、人材確保が一番大変で、鍵を握っているように思います。コーディネーターが決まると決まった人が一生懸命やってくれるので有難いという学校もありました。昔は地域のことをよく知っている人がたくさんいましたが、今は地域間の交流がだいぶ少なくなってしまうので、一部のことは知っているが、全体になるとわからないということが多い。ですから、コーディネーターの選出がうまくいくことで、1年間の業務量がだいぶ少なくなるように思います。また、コーディネーターの課題にもありましたが、継続して何年もやってもらえれば続くのですが、1年しかできないとなるとまた次の年探さなければならぬ、非常に大きな課題だと思います。こういったことをうまくクリアしてこれから活動ができればいいかなと思います。

いくつか質問させてください。例えば学校とか、コーディネーターが地域に文書を回したい、募集したいことがあるという場合にどこにお願いしたらいいのでしょうか。

それともう一つの質問ですが、3ページの学校運営協議会と学校評議員会の主な相違点の中に、学校評価というのがありますがどんな学校評価を考えているのか、その点についても聞いてみたいと思います。

いくつか言わせていただきましたが、本当に無理がないように、負担にならないように、少しずつ増やしていってもらえればというように考えています。

以上です。

・伊藤生涯学習課長

地域への文書などをどう回覧したら良いかということですが、総務課で管理している各地区への回覧板の利用、また、飯岡小学校では、地域住民あてにパンフレットを作成し、わかりやすく説明したということもあります。

今後、活動をお願いするにあたってはパンフレットなどで周知をし、教育委員会で支援できることはやっていきたいと考えます。

・齊藤学校教育指導室長

この表に記載してあります学校評価で1回以上ということですが、規則の方にこのように定めました。「協議会は対象学校の運営状況について、毎年度1回以上の評価を行うものとする。協議会は、対象学校の所在する地域の住民、保護者等に対し、対象学校の運営及び当該運営の必要な支援に関する協議の結果に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない」というこ

とで協議会としてこの学校の運営状況がしっかり行われているか、そういった評価を年1回必ず行ってくださいというような内容になっております。

・米本市長

ありがとうございました。

次に、鈴木委員お願いします。

・鈴木委員

1年目ということもあって課題が多いのではないかと考えております。

気になったのですが、各学校で保護者ではなく地域の方々がどの位関係しているのか、PTAの活動との関係はどのようになっているのか、新たな事業を始めたのかというようなところを、モデル校同士で確認していく必要があるのではないかと思います。

それから、大きなことですが、資料2の中で3つの権限というのがありますが、その3番目、教職員の任用に関してという部分ですが、任用に関してどのように一般の人たちが要望していくのか、何をもってそういった要望を出していくのかということもひとつの課題になると思います。

それから前回の会議の資料の中に期待される効果というのが5点ほど掲げられていたのですが、その効果がどの程度表れているのかということもこの年度末に調査する必要があるのではないかと思います。内容としては、先生方が自分たちの指導に関して、子供たちと向かい合う時間などが、確保されるための教育内容に関する働き方改革ということが主に書かれているのですが、今働き方改革は勤務時間について調査し、問題となっているところですので、その辺のところも含めて、この調査をしていくということが必要になってくるのではないかと思います。

最後になりますが、学校と地域ライフプランということで、考えてみたのですが、青少年意見発表がそのひとつになるのではないかと思います。青少年意見発表で発表した人が、二十歳のつどいでまた発表するという結びつきを作っていくことで、あの時、こんなふうに想っていた、でも20歳になったらこうなったということは、旭に対する考え方がおもてに出てくる良いチャンスではないかと思います。それもいきいきプランのひとつになるのかなと感じます。

以上です。

・伊藤生涯学習課長

ご意見ありがとうございます。

最初に保護者ではない地域の方々ですが、現在進めている段階で把握していないところもありますが、第2回コーディネーター会議を2月に開催しますので、その中でPTAの参加等についても検討してまいりたいと考えております。

地域学校協働活動の効果ですが、教職員だけではなくて、子どもたちが信頼できる大人との関わりを持って褒めてもらったり、認めてもらったりすることで、自分と周りのことを愛する思いやりの気持ちが期待されると言われています。それは、まさに地域への愛着を持つことに繋がるということも期待されています。

また、様々な人と関わりを持つことで、その人の思いや生き方が刺激となり、コミュニケーションの形成にも繋がります。学び合いの意欲が向上し、学力向上に役立つというようにも言われています。最初の段階では、教職員にとっては、当然、懸念される場所であると思いますが、地域コーディネーターが中心となって活動ができれば学校の負担も軽減していけるのではないかなというように思っております。

現段階では、今まで学校にあった活動、それをベースにして5校それぞれ様々な特色を生かした、きめ細かな活動をしておりますので、今後、再度検証し、来年度に繋げていけたらと思っております。

以上です。

・ 齊藤学校教育指導室長

様々なご意見ありがとうございました。

まず学校運営協議会における3つの権限のうちの3つ目の任用の部分ですが、この部分については、非常に慎重に取り扱うことが必要になってくるかと思えます。

資料2-2の1ページの左下に例が定めてありますが、具体的には、〇〇先生とそういった固有名詞を除いて、英語教育に力を入れたいので、英語が堪能な教員を配置してほしい、こういった表現での意見ということで例が出ているところです。この辺を個人名等が出てしまうと非常に学校経営上、難しくなってきますので、ここは慎重に対応していきたいと考えております。

それからコミュニティ・スクールを導入するメリット、様々なあるかと思うのですが、それぞれの立場で考えた場合にどうなるかということで、ひとつずつ例を申し上げたいと思います。

まず、子供にとってのメリット、様々な支援を得られると、子供たちの学びや体験活動が充実。教職員にとってのメリット、地域の人々の協力を得た学校運営や、社会に開かれた教育課程の実現が可能となる。保護者にとってのメリット、学校や地域に対する理解が深まり、家庭教育との相乗効果が生まれ、そして地域の人々にとってのメリット、自身のスキルを生かすことで、生きがい、やりがいを感じることができる。このように示されています。

また、県教委が主催したコミュニティ・スクールの説明会に参加した際に、これまで学校長の判断で学校運営をしてきたが、コミュニティ・スクールが導入されることで、学校と地域とで、この方針で教育活動を進めているということになるということで、そこが、大きく変わることはないかなというような助言をいた

だいております。

・伊藤生涯学習課長

先ほど、青少年意見発表大会で発表した人が二十歳のつどいというお話がありました。二十歳のつどいについては、実行委員会を立ち上げております。実行委員は中学校3年生のときに、合同文化祭で選出された方々でありまして、当時意見発表をした方々に、今の心境についてというようなかたちでお伝えしてできたらと考えております。

・米本市長

ありがとうございました。

続いて、富山委員をお願いします。

・富山委員

地域学校協働活動の前期まとめを参考にすると、4つの活動支援にまとめられると思います。1つ目は、読み聞かせなどの支援、2つ目は町探検や体験学習などによる体験支援、3つ目は、パークゴルフ大会や登下校見守りなどの健康・安全支援、4つ目は授業補助や放課後学習支援などの学習支援、モデル校でのコーディネーターの負担から各支援において部会化や組織化をすると軽減されるのではないかと考えます。

各学校でのマネジメントをもとに支援可能な活動を設定し、コーディネーターを通じ、部会や支援を依頼するかたちも考えられると思います。

また、オペレーション的なマニュアルがあると段取り、引継ぎが容易になると思います。コーディネーターや学校側の役割をできるだけ軽減する必要があると思います。コーディネーターの資質や能力に頼る方向では持続可能な活動は厳しくなると思います。

また、支援活動について、協働活動区域内、また市内全体に対して実践したことを発表し、広報する必要があると思います。行った支援活動に対して温かい反応があるとやりがいがあると感じるのではないのでしょうか。この広報活動が5つ目の支援活動になると思います。

・伊藤生涯学習課長

いろいろとご意見ありがとうございます。

支援について部会制をとったらどうかということですが、マニュアル化も含めて今後進めていく上で検討していきたいと考えます。

また、現在コーディネーターの方々の負担となっているところもあり、コーディネーター1人でいいのかということもありますので、今後コーディネーターの役割の明確化を考えていきたいと思っております。

広報活動ですが、パンフレットの作成や、ホームページなどを使いながら進めていきたいと思います。

・米本市長

はい、ありがとうございました。

それでは、平野委員お願いします。

・平野委員

今まで行っていた活動を無理なく行ってほしいと思います。負担があると継続した活動が難しくなり、トラブルの元になりますので、そこをお願いしたいと思います。

活動については、例えばお祭りの参加やごみゼロへの参加、ごみ拾いなど考えられるのではないかと思います。それは土日がかかってしまうので、そこを学校がどう入るのかという問題もありますが、お祭りを盛り上げるボランティアとかお神輿を組む、飾るなどそういったこともひとつのお祭りへの参加になるのかなと思っております。

資料２－１、古城小では細かく体験をしており、小規模校ならではの対応だと思うのですが、非常に良いことだと思います。コーディネーターになったからといって活動に参加しないといけないというわけではなく、行けるところで運動場の整備や芋ほりだけとか、できる範囲でとてもいい活動だと思います。

飯岡小の海岸清掃も入れてもいいのかなと思いました。

これから５校以外の学校も増えてくると思いますので、海辺の学区を持っている小学校をメインでビーチクリーン作戦を行っているので、それもひとつに加えられるといいのかなと思います。

以上です。

・伊藤生涯学習課長

いろいろとご意見ありがとうございます。

お祭りやごみゼロへの参加ということで、土日もかかりますが、今後地域学校協働活動の中でコーディネーターをお願いし、進めていけたらと考えております。

古城小の活動については、元々行っていた活動であり、社会福祉協議会が中心となり多くの活動を行っております。また、場所によっては、ＰＴＡの活動の中で進めている学校もあります。

飯岡小の海岸清掃については、資料の中になかったので後ほど加えさせていただきます。

以上です。

・米本市長

ありがとうございました。

それでは、諸持教育長お願いします。

・諸持教育長

各委員さんから適切なアドバイスをいただきましたが、私の方から気がついた点と、今後更にということでお話しさせていただきます。

昨年度、これを始めるにあたって、いろんな心配が会議の中で何度か皆さんから出ていたわけではありますが、先程の資料2－1を見ますと、とりあえずいくつかの活動をスケジュールに入れていただき、実際ここまでやってきたということでもあります。まず、1年目はこれでいいのではないかなと感じました。

学校訪問させていただいた時に、各学校では、いろいろな活動を行っているようですが、主な行事がここに挙がってきているようです。市内小学校15校見ても同様の活動としては、例えば、旭の特色である農業体験、田植えや稲刈り、それからさつま芋の収穫と収穫祭など、また、中学校では、海の近くの学校が、地引き網体験といった水産農業の体験を、以前から各学校では取り組んできたと思います。そういった活動を改めて、年間の活動計画にきちっと位置づけていただき、各学校の特色の良さを行事的にプランニングし、保護者や地域の方へ改めてお知らせをした上で、こんな時にこれ位の人数が必要とか、こういった場面でこんなお手伝いをお願いしたいなど、わかりやすく周知し、少しでも理解が広まれば今までやってきたことがほとんどでもあるので、人が集まるのかなというのが1点です。

それから、学校の方だけが少し援助をいただくというだけではなく、学校と地域がいきいき輝かなければいけないために、学校の子供たちや教職員が地域に貢献する、地域の行事に参加するという双方の活動があるべきなのかなと思います。それは、一度に進めていくのは大変だと思うので、まずは地域の人にこんな事が始まったということを理解してもらい、その次に、今度はうちの方のお祭りにも来てもらおうと、段階的に行っていけばいいのかなと思います。コロナ禍で残念ながらどの地域も行事が中止になるなどはしていますが、来年以降はそんなことも見据えて、双方でやって良かった、協力して良かったというようになれば、双方でいきいきライフプランということになると感じております。

私の方からは以上でございます

・米本市長

ありがとうございました。

では私の方から、先日、石破茂衆議院議員のお話を聞く機会がありまして、その石破さんがおっしゃるには、小中学生に地元学、地域学、自分の生まれ育った地域のことをしっかり教えていかないと高校が終わったらみんな外へ出て

帰ってこないという、そんな話をされていまして、まさにそうだなと思っておりました。

この事業は、地域の方が学校へ入ってくださるということで、地域の良さを知っている方々ですから、そういった方々に地域の良さを子供たちに伝えていただければいいなと思っています。

旭市は「豚肉がおいしい」とか「夏、岩牡蠣がおいしい」とか「適切な年代に応じたおいしいものがある」とか。例えば海岸清掃されていますが、旭市には海がある、我々は当たり前のように感じますが、海なし県や海なし市町村もありますので、そういったところと比べると海があつていいよ、というようなことを見据えて学ぶ機会を作っていただきたいと思います。

旭市では、「あさひ 輝いた人々」の冊子も作っていただいています、そういった偉人だけではなくおいしいものも伝えていただければなと思います。今でこそゆで落花生が手に入るようになりましたが、かつては、産地でしか食べられない、地元でしか食べられないゆで落花生を食べられることは素晴らしいなと思います。

これは本筋ではないと思いますが、今後小中学校の再編を進めていく過程で、地域の皆さんが学校に関心を持ってくださる、来てくださる、今後この学校どうするのという地域の方が考えるきっかけにしていいただければと思います。

質問ですが、矢指小学校でエアコンフィルターの清掃という活動があります。これは非常にユニークだなと思います。こういった経緯なののでしょうか。

・榎本主査

矢指小学校のエアコンフィルターの清掃の件ですが、地域学校協働活動を始めにあたって、今までPTAにお願いしていなかったのだけでも、協働活動を始めるということで、これに協力してくれる方がいればということで、リストに挙げたところ、保護者の方が快く協力してくださったということで、今までお願いできなかった活動もお願いできるということになっております。

・伊藤生涯学習課長

先ほど言うておりました、「豚肉」や「さつま芋の体験」については、生涯学習課の社会教育班で市内全体の子供たちに対しての活動はしております。豚肉は食肉公社からの提供で大原幽学を活用して、ウォークラリーの活動をしている経緯もありますので、そういったことをPRできたらと考えております。

・米本市長

ただ今、皆様から一通りご意見をいただきましたが、全体を通して更にご意見があればお願いします。

- ・鈴木委員

先ほど、教育長の方から話がありましたが、子供たちが地域の行事に参加するということになれば、双方の関係になると思います。特に学校の奉仕作業には、けっこう地域の方が取り組んでくれているということがあります。そうすると、学校の中がいつも綺麗です。でも、学校の外へ行くと、そうではない環境ということがかなりありますので、学校も地域もいつも綺麗だというような、そういった結びつきにしていこうことによって、かなりプラスになるのではないかとそんな感じを受けました。

- ・諸持教育長

付随しまして、先週、青少年発表大会で矢指小の6年生が、コロナ禍で以前は、笛、太鼓のお祭りの練習を祭り前までしていたけれども、最近はできない、練習していた頃は、地域の叔父さんやお兄さんが外で声を掛けてくれてとてもうれしい、とそんな発表でした。ですから、まさに地域コミュニティがお祭りを介してあるということになります。新たなものをやるのではなく、お祭りなどが復活すれば、日常のあいさつを、地域の人が声を掛けるということが双方で大事だなと思っております。

- ・平野委員

海があるということで、避難訓練もこの活動に落とし込めたらと思います。飯岡中学校が高台避難というのをやっています、小学校ではどうなのかなとは思いますが、そこまで一緒に連れて行ってくれるよとか、ここは危ないよとか、避難に行く道でも危ない場所もわかりますし、そういったこともひとつの取り組みかなと思います。

- ・伊藤生涯学習課長

避難訓練、各学校で取り組んでいると思いますので、その辺も含めて検討してまいりたいと思います。

(2) 日本一身近な海づくり推進事業について

- ・米本市長

ご意見がないようですので、2つ目の「日本一身近な海づくり推進事業」について、事務局より説明してください。

- ・金杉体育振興課長

体育振興課からは、資料の3、日本一身近な海づくり推進事業「ぽるぽろ」について、ご説明いたします。

事業の目的は、旭市には海があるということで、海岸を地域振興のひとつとして位置づけ、一年を通して海岸で楽しめるような環境（イベントなどの取り組み）を整備し、市内外を問わない交流や体験を通じて、旭市への移住・定住を目的としています。

なお、教育委員の皆様には毎月の定例会で、市長にも毎月イベントの実施内容についてご報告させていただいておりますので、要点のみご説明いたします。

「２．進捗状況、（１）会議実施」について、第１回目会議の７／２１（木）に、「日本一身近な海づくり推進協議会」を設立し、現在、事務局からの提案を参考にしながら、協議会でイベントの企画・運営を行っております。

別紙の名簿をご覧ください。協議会の構成です。

上から、会長の横町さんは観光物産協会の会員で飲食店経営者です。副会長の石毛さんは、スポーツ推進委員です。その他、商工会青年部、海匠漁業協同組合、ダンスのインストラクターの女性、旭の海岸でビーチクリーンやヨガを実施している女性、海のイベントの大先輩である「ＹＯＵ・遊フェスティバル実行委員会」、海の安全を守る海上保安庁、最後に市役所の関係課から４名が入り、計１２人の構成です。

今後、協議会の皆様には、実はこれが一番難しいのですが、自分たちで作るイベントとして自ら企画・運営し、改善・発展していく組織になってもらえるよう進めていきたいと考えています。

「（２）今年度のイベント」は計３回で、１回目は台風の影響で中止しました。２回目は１０月に実施、３回目は今週の日曜、２７日９：００～１２：００に開催します。

「３．今後の予定・方向性」ですが、今週末のイベントは定員を定めず多くの参加者の来場を期待して開催しますので、その後のアンケート結果を踏まえ反省・課題等を整理し、来年度以降も多くの参加者に来場していただけるイベントになるよう協議会をバックアップしてまいります。

最後に、移住・定住を目指すということでスケールの大きな目的ですが、協議会のメンバーの皆さんにはこれが重荷にならないように、難しく考え過ぎず、海の安全を第一として、「旭市は海岸で楽しいイベントを何回もやっている面白い市だな、遊びに行こうか、また参加したいな。」と思っただけのような魅力的なイベントを継続して開催することで、その先の移住・定住に繋がるものと考えています。

説明は以上です。

・米本市長

ありがとうございました。事務局の説明は終わりました。

意見交換の途中ですが、ここで休憩に入りたいと思います。

<午後3時5分まで休憩>

・米本市長

会議を再開します。

事務局の説明は終わりましたので、意見交換を行いたいと思います。

ただ今の議題につきまして、皆様の思い・考えを順番に聞かせていただきたいと思います。先ほどの順番と逆回りをお願いします。

平野委員をお願いします。

・平野委員

ぼるぼろは継続して開催していく予定で良かったでしょうか。

質問ですが、YOU・遊フェスティバルとの関連はどうなっているのでしょうか。そしてこれからどう考えているのでしょうか。

・金杉体育振興課長

はい、ありがとうございます。

YOU・遊フェスティバルということです。ぼるぼろの元々の目的が、海は夏だけではないということで、夏以外でも通年で人を寄せられるような遊びがあるのではないか、ということで始まったものです。

ただ、来年度の検討の中に夏1回、夏のイベントと連携して開催するのもいいのかなというような意見をいただいていますので、また協議会の中で開催について考えていきたいと思います。よろしくお願いします。

・米本市長

ありがとうございました。

それでは、富山委員をお願いします。

・富山委員

協議会委員の皆様による協議・運営及びボランティアの皆様におかれましては、大変ご苦勞があったことと、それに見合う成果があったことを大変うれしく、また感謝しています。

海岸を地域復興のツールと位置づけ、交流人口の増大を期待する地域活性化の場となることを目的として行う推進事業で、今後の成果に期待したいと思います。

以前、海岸や飯岡公園の海側でバーベキューやアウトドア的なことをやっていましたが、現在はそんな姿が見られなくなりました。素行が悪くて禁止されたのではないかと考えておりますが、交流にはやはり飲食が含まれるような気がします。

イベントのみの推進事業な感じがしますが、旭市の地域復興、身近な海づくりというコンセプトで思ったことは、マリーナ、マリンスポーツ、各種ライセンス

の取得など、観光や集客を目的とした商業の誘致、空き家を利用した賃貸契約の斡旋、市内海岸線をゾーンに分ける最適化、車輛進入禁止地域が不透明であること、駐車場の整備、駐車場から海岸までの遊歩道の整備、定期的な海岸清掃、景観整備、アクセシビリティ、トイレ・ビーチなどの環境整備、緑地化、公園の増設、整理、植樹、文化やアートなどの展示、イベント、花火大会、集客を目的とした施設、観光、交流、休憩施設、商店街の活性化、体験学習の場、廃校利用などを考えていただければ広がるような気がします。

海岸の活性化は市内の活性化に繋がると考えます。双方から変革が必要であると思います。意識づけからの変革が必要だと思います。イベントからもう一步海を持つ、資源であるということを踏まえ、推進事業を行っていただけたらと思います。

以上です。

・金杉体育振興課長

はい、たくさんの意見ありがとうございます。

イベントのみではなく様々なことができる、環境の整備、周辺の道路環境などいろいろな観光目的があると思います。委員の中にも関係課4課入っています。ただ今のご意見の他にも関係する課がたくさんあると思いますので、まず、それぞれでやるべき事業は関係課で進めるもの、こちらで連携できるものは連携しながら進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

ご意見ありがとうございます。

・米本市長

ありがとうございました。

それでは、鈴木委員お願いします。

・鈴木委員

海づくりということですが、SDGsの14に該当するものになるのだと思います。色々調べてみたのですが、ここは九十九里の北端で、単位をkmにすると、66kmになると書かれていました。66というと99を反対にしたもので、そうするといつも陸から海を見ているようですが、海から陸を見ると、なにか違いがあるのかなというような感じをもちました。

海岸の歴史と現状ですが、歴史についてはまとめられているのではないかと思いますけれども、現状は東日本大震災で大きく変わりました。堤防がかなり高くなって、車を運転しながら今まで見えていた景色も若干見えなくなるということもあります。そんな中、堤防に絵が書いてあるのです。先日も堤防に絵を描いていました。鹿島の堤防には、一般団体の方がかなり絵を描いています。生徒も参加していると思います。その堤防が今後どうなるのか気になるところです。

今年のことになりますが、消波ブロックの一部が海から撤去されました。東日本大震災のあと津波対策として、消波ブロックを海の中に入れていたのですが、光景は同じですが、11年経つと引き上げるというかたちで全く逆の内容が行われていました。先ほど市長さんもお話していましたが、消波ブロックにかなり岩牡蠣が付いていたということでだいぶ人気になったようです。こういう状況ですので、これからどのように浜辺が変わっていくのか気になるところです。

それと、動植物の生態系の変化にも興味を向けるべきだと思います。海鳥もかなりの種類がいます。亀も海岸に上がってきています。それから陸だと、うさぎ、たぬき、最近では猪、8月頃には鹿（キョン）が目撃されたということがありました。魚介類も多数です。花も季節に応じてたくさん咲いています。そんな中で是非見ていただきたいという景色があります。チガヤというススキのようなものなのですが、草丈はかなり小さく、これが5月から6月になると、白い綿のようなものが開花して、海岸一体が真っ白になる。これを是非見ていただきたいと思います。秋には、ススキが景色を作って、いい色合いを出しているのですが、ただ気になるのが、セイタカアワダチソウがかなり繁殖範囲を拡大していて、その他の領域にも入り、小さな動物のすみかにもなっているのではないかというような感じを受け気になるところです。このような景色があるというのも、移住定住を目指すことを目的とするならば多くの人に知っていただくということが必要だと思います。

それと、大きな問題であるごみの処理ですが、コロナの自粛時に海岸がごみの山になりました。あれほどひどい光景見たことありませんでした。結局それは市の方で処理をしていただいたということですが、今はあれほどのごみは海岸にはありません。新聞記事ですが、昨年房総半島沖の海底で大量のプラスチックが見つかった、という報道がありました。海に国境があってもごみには国境はないのだということを強く感じさせる気がします。

海岸清掃は、ぼるぼる、それから学校のボランティアで行なわれていますが、ごみを処理するだけではなくて、ごみを宝にして仕事をしているという方も、日本国内に何人かいらっしゃるということも報道で出ています。その方向で広く進めていくことができればと思っています。

最後になりますが、海や海岸には学ぶ材料が、海なのに山ほどあるという感じがしますので、是非これを活用していくということが必要になってくるのではないかと思います。

以上です

・金杉体育振興課長

たくさんのご意見ありがとうございます。

何点かお答えできますのでお答えしたいと思います。

まず、堤防の絵アートですが、鈴木らなさんのことだと思います。来年度は、

鈴木らなさんに関わっていただけるようなイベントも検討していきたいと思います。

それから、テトラポットの撤去についてご心配いただきありがとうございます。確認したところ、県としては、イベント会場からは1キロ程度離れていますので、安全には問題ないということ言われています。テトラポットはまず一部分を撤去して、その後10年間潮の流れを観るそうです。10年間観た後、計画自体は30年ということですが、残りの20年の中で、この潮の流れをモニタリングした結果を踏まえて、どうしていくかということを整備していくというようにお聞きしています。海の安全を第一に、建設課を通して確認しながら進めていきたいと思います。

それから生態への変化でございます。こちら市としても、毎回同じイベントをしていても面白みありませんので、そういった学びの場も入れながら、せっかく海上保安庁に入らせていただいておりますので、テーマを決めてやっていきたいと思っております。

ビーチクリーン、ごみの山、ごみを資源にという意見もいただきました。こちら環境課がメンバーに入っております。連携しながら、それからビーチクリーンで拾ったごみをごみとせず、そこから何か作れるのではないかなというような意見もいただいておりますので、参考にこれからも楽しいイベントを開催していきたいと思います。ありがとうございます。

・米本市長

ありがとうございました。

それでは、鎬木教育長職務代理をお願いします。

・鎬木教育長職務代理

先ほど、前の議題のときに市長さんがおっしゃっていましたが、旭のいいところって何かなというと、農業が全国有数である、海が近い、その辺が旭のいいところで、これは売りにする必要があるのかなというように思います。

農業については、更に機械化して能率を上げて、やる人を増やしてもらえればいいと思います。

2つ目の海に関しては、まだまだ始まったばかりで、活用の余地があるかなというように思います。

そういうことで、身近な海づくり事業を始めたと思うのですが、始めたばかりで、まだ今後どのようになっていくか非常に興味があります。

そこで、いくつか思ったことがあります、イベントの「ぼるぼる」に関して内容的には、この3回をみても、体育館でもその辺のグラウンドでもできるようなものなのかなと、できれば、プラス海でできるようなものも将来的には入れたほうが良いのかなというように思います。

それから次の点は、この地域に住んでみたいと感じるようなイベントにしたいと言っていました。かなり大上段に振りかぶってそこまでやるのだったら、例えば、毎年農水産課で大原幽学での田植えや稲刈りを都市交流として行っていると思いますが、そういったことも将来的には考えて、多分イベントだけだったら近隣の人だけしか来ないと思うので、そういった都市部との交流を海バージョンでうまくできないか、すぐにはできないと思いますが将来的にこんなことができればいいのかなと思います。

最後にもう一つは広報活動です。先ほどNHKのAMやBAYFMとか言ったのですが、聞いている人は少ないかなと思います。以前、大原幽学で溝川惣助の展覧会をやったのですけれども、そのときにNHKのニュースに出て、そうしたらその後人が急に集まったということがありました。やっていることがわからないと近隣しか来ないと思いますが、その人が有名なこともあります。そういった広報活動、例えばNHKや民報など、そういう地上波で、非常に壮大な考えなのですが、将来的に何か機会があったらそこで広報できれば一番いいのかなと、気がついたところはそういうところでは。

以上です。

・金杉体育振興課長

はい、ありがとうございました。

せっかく旭でやっているの、何か特徴のあるものということでもあります。

それから、住んでみたい、壮大な目的を持ってそれに繋がるようなものと、広報についても地上波放送ということで、ご意見をいただきました。イベントについて徐々に大きくしていきたいと思いますので、ご意見大変参考にさせていただきます。

ありがとうございます。

・米本市長

ありがとうございました。

では、諸持教育長お願いします。

・諸持教育長

それでは、私なりにこうしたらいいかなということで、PRの点、更に工夫が必要だと思います。そこで、雨天時の工夫を鍋木教育長職務代理から話がありましたが、どこでもできそうではなく、せっかくYOU・遊の花火とか、市内の様々な特色あるお祭りとか、そういったデータがあると思うので、ようこそ旭ということでテーマを決めて、毎回雨の日も盛り沢山で楽しいというような内容を来年度以降準備する必要があるかなと思いました。

それから、この間、初めて私も市長さんと一緒に参加したのですが、いい天気

の中でヨガをやっている風景は、本当に今流行りのインスタ映えするような風景でした。それが伝わるような発信をどんどん同時進行で発信するといいいのかなと感じました。

それと、海辺の利用方法として年間を通じてと言った時に、場所の問題で、なにか物の設置が可能かどうかわかりませんが、検討してもらって、ウォーキングやトレッキング、マラソンの練習コースなど、海辺を使って周回できるようなコース設定とか、それから、案内板を潮騒ホテルの前あたりに、年間を通じての活動のご案内、旭市こんなことやっていますよと、年月日は札で取り替え、時間と場所を掲示すればいつでも使えるような、大きなこの「ぼるぼる」の趣旨、活動内容を伝えるそんな案内板があってもいいのかなと思います。

それから、移住を最終的に狙っていますから、すでに旭市に移住している方々も、少し意図的にそのイベントの時には来てもらって、その時に、旭市の魅力を実際に定住してくれた方から、発表、発信してもらおうとか、そんな工夫もあるのかなと。

それから参加した人からもっとこんなことやってみたい、こんなことやってもらえませんかという様々なことを伺う、これは多分アンケートを今年もやっているかもしれませんが、常に双方向で意見交換して、どんどん意見を取り入れていくということで、その内容が魅力あるものが、今後長続きする秘訣かなというように感じております。

それから最後に、先ほど鈴木委員の方から出ましたが、陸から海を眺めるのと逆に海から陸を眺めるというので、漁港がありますので、これも今後の選択肢として、海から、ぐるっと、その場所で九十九里浜と絶壁を眺めたら最高のスポットとなりますので、そういったプログラムも入れると、とても魅力的で幅が広がるかなと思います。もちろん釣り船体験もできると思いますが。

以上、よろしくお願いします。

- ・金杉体育振興課長

ご意見ありがとうございました。

この件に関しては、商工観光課、農水産課もあると思います。同じ市役所の中ですので、しっかり連携して進めていきたいと思います。

- ・米本市長

それでは、私のほうから、かつて旭市で国体が行われて卓球競技を行うために少しお手伝いさせていただいたことがありました。その時に新潟の選手だったのですが、私生まれて初めて海から日が昇るのを見ましたと言っていました。新潟は、夕陽は海に入るけど、日の出は海から出ないなと。そういうように、全国を見ると本当に自分のところとよそのところを比べるという発想も大事で、また、特に旭市は「日本の夕陽百選」、「日本の朝日百選」どちらにも選ばれて

おり、そういう点で非常に恵まれた立地にある所だと思います。

先ほどより委員の皆さんに盛りだくさんのご提言をいただきました。今のところ体育振興課が事務局をしているので、どうしてもスポーツに近づくことになっていますけれども、そもそもストップ少子化大作戦は各課横断で組織されているところですので、これからそういった環境や観光、農水等と連携しながら、更に活動や事業を進め広げていければと思います。

また、スポーツの場や学びの場ということで広めていただけたらと思います。以上です。

それでは、皆様から一通りご意見をいただきましたが、全体を通して更にご意見があればお願いします。

ご意見がないようですので、続きまして3つ目の「英語教育パワーアッププロジェクト」について、事務局より説明してください。

(3) 英語教育パワーアッププロジェクトについて

・齊藤学校教育指導室長

それでは、英語教育パワーアッププロジェクトについて、進捗状況を踏まえて、ご説明いたします。

まず、委員の皆様には小学校・中学校での英語の教科書をご覧になっていただきたいと思います。

《教科書縦覧》

資料4をご覧ください。

この事業は、旭市の小学校入学時における人口流出を防ぐために外国語教育が充実していると思える環境を築いていくことを目的としています。

今年度の成果として次の2点があげられます。

1つ目は、ALT・JTEの増員により、外国語の授業への参加率が大幅に増えました。別紙のイメージ図をご覧ください。令和3年から令和4年にかけての変化を示しています。まず、中学校ではALTの増員により、授業率が平均50%を超えました。週4時間ある英語の授業で、2時間ALTが参加できるようになりました。小学校では、JTEの増員により、6年生の外国語と1年生の生活科の「国際理解」の授業にJTEが参加できるようになりました。これにより、子供たちは英語に触れる機会が大幅に増えています。次に、英語検定3級の補助を拡充し、英語検定への興味関心を高めることができています。実績は記載のとおりです。

R3英検（3級1回補助）申込者261人、R4英検（3級2回補助）申込者217人（年3回のうち2回目までの人数）

次に、今後の外国語教育の充実に向けた取り組みを説明いたします。

これまでの取り組みを旭市全体の外国語教育と捉え、目標と方針を定めること

が必要と考えました。

目標を「外国語を使ってコミュニケーションすることを楽しみ、学び、自己の考えなどを主体的に発信する力のある児童生徒の育成」と定める予定です。

また、基本方針を3つ、「授業の質の向上」「児童生徒の英語力の向上と学ぶ意欲の向上」「教員の英語力・授業力・専門性の強化」と定め、外国語教育の充実を図っていく予定です。これにより、目指す児童生徒の姿は図のようになります。義務教育卒業時には、市内の子供たちが、これからのグローバル社会で生き抜くためにも、英語で考え発信できるように育てていきたいと思います。

今後の課題として、

(1) A L T ・ J T E の効果的な活用

(2) 教員等の指導力向上

(3) 学ぶ意欲の向上

が挙げられます。

1つ目の対策として、先ほどの事業イメージ図でご説明いたします。令和4年度の図からもわかるように、教科化とされている小学校5年生にA L Tは派遣できていません。もし、A L Tが参加できれば、英語を話せる職員2名が授業に参加するため、3つの効果が期待されます。

1つ目は英会話の手本を示すことができる。

2つ目はネイティブ(英語を母国語としている人)の英語を聞くことができる。

3つ目は、指導者が増えることできめ細かな指導ができることです。

これらにより、子供たちは、英語に慣れ親しみ、英語を使おうとする意欲が高まるであろうと考えています。そのためにも更なるA L Tの増員が必要と考えます。

2つ目の教員の指導力向上対策として、A L TやJ T Eが増進され、より授業を進めていくためにも、経験豊富でA L TやJ T Eに英語で指導・助言ができる人材、また旭市の外国語教育をコーディネートする立場の人材が必要と考えます。

3つ目の学ぶ意欲の向上ですが、子供たちの英語力を形で示すことができる英語検定の積極的な受験を促したいと考えます。現在、3級受験者は2回の補助により大幅に増加しています。今後、中学校1、2年生も受験しやすくすることで、中学校での英語検定への関心が高まるのではないかと考えています。そのためにも英語検定への補助が拡充できればと考えています。

様々な課題はあるものの、令和4年度の実績から、教育効果は大変大きく、更なる拡充により、近隣市にはない、魅力ある環境が作れるのではないかと考えています。

以上で説明を終わりにします。

・米本市長

事務局の説明は終わりましたので、意見交換を行いたいと思います。

ただ今の議題につきまして、皆様の思い・考えを順番に聞かせていただきました

いと思います。先ほどと同じ順番でお願いします。

平野委員をお願いします。

・平野委員

学校訪問をさせていただいておりまして、ALTやJTEの方々の授業はとても盛り上がっている学校と、今一の学校とありまして、とても温度差があるように思います。盛り上がっている学校というのは、子供たちも英語を楽しんでいるというように思っているのだろうと見えます。英語、そして英会話が楽しいという気持ちの醸成が、本当に望ましくて、5ページに書いてある「児童生徒の学ぶ意欲やきっかけに繋げることができないか期待」という言葉に則れるのではないかと思います。

英検のほかに、海外の視察とか勉強とか留学までいかににしても、そういった発展があればいいかと、英語が特に得意な生徒、子供たちは、そういう機会があればいいなと思っています。

それと、青年派遣研修のようなものが以前はあったようですが、現在はどのようなのかお聞きしたいと思います。勉強不足で団体がどこなのかわからないのですが、合わせてお願いしたいと思います。

・齊藤学校教育指導室長

貴重なご意見ありがとうございます。

まず1つ目の海外との交流の件に関しましては、旭第二中学校が、オリンピック、パラリンピックの関係で、ザンビアと交流を深めております。その中で、オンラインで相手の学校と交流を深めております。また、ドイツともやっておりますので、今後、そういったかたちが他の中学校にも広がって、オンラインで海外と繋がる機会が増えることで、生徒の外国語に対しての関心が更に高まればと考えているところです。

それから、中学生海外派遣研修については、今コロナ禍で中止になっていましたが、コロナが終息する方向に向かえば、引き続きできるのではないかと、今検討してもらっているところでございます。行き先は、シンガポールへ東総地区の中学2年生、各代表2名が行くことになります。

・米本市長

ありがとうございました。

それでは、富山委員をお願いします。

・富山委員

以前は1、2年生に英語の教育機会がなかったということでしたが、保育所時期に月1回程度の教育機会があったならば、1、2年生にも同等の機会、月

1 回程度の教育を提供することが望ましいと思います。子供が保育所の時に、英語の先生が来てくれて、英単語やゲームが楽しかったよ、という報告を受けたのが保育所のちょうどその時期だったので、本人としては楽しかったのだと思いましたので、小学校 1、2 年生も勉強というかたちではなく、歌や手遊びなど楽しく抵抗なくできるような機会があればいいのかなと思います。ALT、JTE 関係なく指導していただければと考えます。

また、資料の方に、今後の外国教育の充実に向けての目標が記載されていますが、「学び、自己の考えなどを自主的に発信する力」とありますが、この点に少し違和感があり、英語学習というのはコミュニケーション能力と総理解能力を高める学習であって、プレゼンテーション的な発信を意味することだけではないので、何かほかに良い言い方があればと思いました。

今後の課題にもありましたが、ALT、JTE は効果的に活用していく必要があると思います。ALT が入る授業は、英語を使って話したいという意欲の向上に繋がる要因のひとつだと思います。また、ALT は褒め上手であり子供たちの意欲も上がると思います。

自国の学習方法や多方面の指導方法など様々なアイデアがあると思います。

ALT が入らない授業は、まず正確な発音練習が大事だと思います。発音練習は、リスニングやスピーキングの基礎のトレーニングだと思います。発音できる単語は聞き取れます。聞き取れば会話ができます。英語の 5 技能、Reading（読む）、Listening（聞く）、Writing（書く）、Speaking（話す）、Interaction（やり取り・対話）を伸ばす授業展開をお願いしたいと思います。

・ 齊藤学校教育指導室長

ご意見ありがとうございました。

まず、小学校低学年の英語については、市として年 3 回程度は行いましょうということで、進めてもらっております。今年から始まったもので、どのような形で授業をやればよいか学校にもうまく伝えられていない部分もありましたので、次年度に向け、先ほども提案させていただいた、ALT や JTE の指導力の向上のためのコーディネーター、これを配置できれば、その方に効果的な授業のあり方などを指導していただいて、低学年でも子供たちが楽しんで取り組めるような授業づくりを目指したいと考えております。

また、目標につきましては、これは教育委員会案でございますので、次年度、校長会また外国語部会の先生方とも協議しまして、今後正式に目標を定めていきたいと考えております。

・ 米本市長

はい、ありがとうございました。

それでは、鈴木委員お願いします。

・鈴木委員

英検に関するリーフレットが以前配られました。この中に、国際社会で活躍できる広い視野を持った人を育むとあるのですが、今グローバル化が進行するなかで、広い視野を持った人が必要になるというのはすごく重要なことなのではないかと思いますし、人生100年時代と言われているので、常にいつになっても広い視野が求められていくのではないかと感じます。なので、生涯学習のひとつの勉強の基盤になるのではないかなということを感じました。

それから、高校入試のため、あるいは、英語検定試験合格のための英語教育だけではないのかという意見もありますけれども、そんな中で、東京都が今年度の高校入試に初めて、新たなものを取り入れました。それが、スピーキングテストで、この目的が英語で話す力を身に付けてもらうということでした。今年から始まり、これについては、いろいろな意見があるようですが、こういった傾向があります。それと、大学の方では海外留学を必修科目としているところが増えてきてまして、これもやっぱり英語で話す力を身に付けるというようなことが条件のような気がしないでもないのですが。

自分事になってしまうのですが、タイの日本人学校に3年勤務しました。タイで教員として働く場合には、タイ国教員免許状が必要になり、そのためには、タイ語検定に合格しなければならないという条件がありました。当時、かなり苦しみました。勉強しました。学んだタイ語を日常生活で使うということが毎日のことなのです。これによって、いかにタイ語の力がついてきたかということを実感しました。ただし、日本でそういった環境になっているのかというと、学校で学んだ英語は巷に行って使う機会がほとんどないので、これをどうにかしなければいけないということで、関西のある大学では英語村をキャンパス内に作って、その中でいろんな行事をやるのですが、その中ではすべて英語で、日本語が禁止だというようなことを取り入れているのです。最近、英語村を作る市町が出てきているのです。このようなことをやっていけば、最初に説明があった、子育て世代への市内の小学校へ入学するメリットというようなひとつになってくるのではないかと、そうすれば、人口流出を妨げるというひとつの要因になるのではないかなという気がしました。

とにかく、学校で学んだことが日常生活に生かすことができないという環境を変えていくということでなければ、英語を話す力というのは子供たちもついてこないような気がします。

以上です。

・米本市長

はい、ありがとうございました。

それでは、鏑木教育長職務代理をお願いします。

・ 鎬木教育長職務代理

教育課程が変わって、英語を小学校で教えるようになって、小学校の先生方は非常に不安があったと思います。でも、コロナになって、あの英語学習があまり注目されなくなってしまったので、今あまり話題にならないのですが、でも、小学校の先生の話聞いてみると英語が非常に厳しい、自分がやってきたわけではないのに教えなければならないというのは、特に高学年については、非常に困っているみたいです。

英語というと英語学習では聞く、話す、読む、書くという4つの要素があるのですが、日本人は読む、書くは非常にできるのですが、聞く、話すは苦手という話があります。そう考えると、ALTやJTE、こういった人たちの本当の生の発音を聞いて、それで会話する、非常に大事なのではないかというように思います。しかも、英語教育パワープロジェクトということをやるのであれば、市長さんにもお願いしたいのですが、今年は非常にALT、JTEの数を増やしたようですが、さらに将来的には増やしていただかないと厳しいかなと、そうすると、先生方も自分で発音しなくても、そういう人がいればありがたいと思いますので、そういうかたちで今、ALT 8名、JTE 4名でやっていますが、それ以上のことをできるだけ将来的には増やしていただきたい。

それから最後になりますけれども、英検が増えてきたということは非常にいいと思います。さらに、学校で宣伝してもらって、どんどんチャレンジしてもらえるとありがたいなと思います。

以上です。

・ 米本市長

はい、ありがとうございました。

それでは、諸持教育長お願いします。

・ 諸持教育長

今回大きなテーマ、ストップ少子化大作戦のうちの一つの項目を扱っているわけで、私の立場としては、近隣において、旭の教育そのものが非常に良いよ、頑張っているよ、色々特色ある取り組みをやっているよということを大いに発信できる一つは、この英語教育になるかなと捉えております。

それで、先ほどより、単に言語だけじゃなくて国際理解教育という視点と様々な要素があるという、各委員さんからありましたけれども、私もそのように思います。

今、学校現場ではタブレット1人1台、ICT教育、いろんな項目をどんどんやらなければいけないのですけれども、それを上手く有効活用の方に持っていっていただいて、その中の一つ外国語の充実を更にというところで、指導者の体制

を充実させることが重要なので、鎗木教育長職務代理からもありましたけれども、今後とも予算の拡充を是非お願いしたいと思っております。

そこでもう一つ、私は、グローバルな社会ですから、結局はコミュニケーション能力のひとつ、英語教育をしっかり話せる、聞ける、その大元はやっぱり言語なので、従来の日本の読み書き、そろばんじゃないですけども国語の充実、読める、書ける、そして、自分の考えを相手にちゃんと伝えられる、これが、盛んに最近では学校訪問でもよく発表の場面を考えてやっています。そのいろんな伝達方法の中で、英検の力も必要、もう一方で漢字検定もありますけど、読み書きの力も合わせて、双方で言語教育の力をつけて非常に大事な、そして自信を持って、日本の伝統文化をいろんな人に話せる、英語でも話せる、パソコンや様々な機器を使っても発信できる、そんなところにこう持っていければいいのかなというところで、旭の教育の中でも英語教育はICTを踏まえて、一歩でも二歩でも進んでいるというような教育をみんなの力の協力を得て、更に推進したいなというように思っております。

以上でございます。

・米本市長

ありがとうございました。

それでは私の方から、まず一番お願いしたいのは、小さい頃から英語嫌いな子供を作らないで欲しいなと思います。

英語で遊ぼう・楽しもう・慣れ親しもう、と書いてありますが、子供たちの発達に応じたかたちで英語教育を進めて、早くから英語が嫌いで中学校へ行く頃には英語なんて嫌だなと思う子供がいないようにしていただきたいなと思います。

その関連で一つ質問ですが、この英語に関して成績評価はどのように学年で違うのか。

それからもう一つは、諸持教育長もおっしゃっていましたが、母語を大事にしてほしいなと思います。かつてNHKの教育番組で「英語で遊ぼう」だったのが、今は「日本語で遊ぼう」という番組です。やはり母語がしっかりしていないと英語教育はだめだという英語教育学者の方もいるので、あまり焦らずに、適切な時期に英語を入れていくイメージでお願いしたいと思います。母語を大事にしてくださいと思います。

以上です。

・齊藤学校教育指導室長

それでは、評価につきましては、小学校5年生以上での評価です。小学校4年生以下はいわゆる特別活動のようなかたちですので、文書で「こういった活動をしました」ということで、保護者には伝えているところです。

・米本市長

わかりました。

皆様から一通りご意見をいただきましたが、全体を通して更にご意見がありましたらお願いします。

ないようですので、本日は活発なご意見ありがとうございました。

今回のご意見を参考にさせていただきながら、今後の活動に反映できるように調整してまいります。

それでは、ここで議長の職をおろさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

8 閉 会

・江ヶ寄教育総務課副課長

ありがとうございました。

議題は終わりました。他に何かございますでしょうか。

特にないようですので、以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。長時間に渡りお疲れ様でした。